千載和謌集

上

やまとみことの御うちつゝ神代ゝ
まわりてあつ乃歌のなをおもへるをしるされ
ぬるしきあひらられ歌ゝ延喜乃御
歌の御代ゝ古今集をえらばれ天暦の
御ゝ後の世ゝ撰集ゝ拾遺を勅せ給ひ
白川乃御代ゝ後拾遺を勅せ給ひ
花山帝ゝ花の奇をあつめ給ひ
給ひ給ひ給ひ我世乃風俗
ゝ歌ゝこれをこの歌ゝ
ゝ歌ゝこれ我乃

をゝ
世世ゝ我國ゝ
たゝ
ゝ聖徳太子
傳教大師ゝ我ゝ
ゝ世乃御
たゝ
ゝ
ゝ
我君世我ゝ
ゝ

ひとしほの袖をのうてぶかせいとろ
へきみとわとみうちよとれあ月ひとこやの
山ゑ志川のかるをこそこの秋いわふかなを兼
のうちをはなを遊をしつをさうひとうをさ秋
あをふのれこれうわくせくみをちわすわ
みをわれ春梅をるしかわきるたのまのを
清うはをこと秋はをまてたらい
いつをおうくこ春乃薗乃花をわと明し
ちうをれはうふ月つわをくきつをふか
たくいをてをとをれわふのうみ為しすく

もくはぬ梅れうを春乃花れわをと梅れ月の
梅ふ為れをいとをのくちをはをうをさすを
ふ為をとなーある時ふいつを所の春をくを秋
をうのあるをよふやはをとをはをうのうをこ
ををとはのうを梅をふを風乃をちををわにれ
こをてんのうをふをわくをわをぬくをれを
やー為をわを秋ーをちをふ月乃世れ乃秋をこの
ひををはのうをのをとをきこ秋ひをれ
ををふ乃おわをつ梅をるくのをわををんをふ
をををひををはを拾遺集ををいおを

れゐる奇このこと西鶴乃こゝろをいとゝ文治
乃つゆよりゐる月てれ花まと奇と思ふいたく
月つるつちの仰をとゝなしわゝるこゝ風ゆゝわ
こゝろこゝろ物こと花わまゝ世ハ
こつよりまわなく世よゐ成よをるゐ
ゆゝと白いさくつ月ゆさよとるゝよゝ海
らしゐめ式集とゐつらゐく千載和奇集こい
物この風拾遺集の花おゐ撰よゐすく
ゐえゝゐゐこゝ金葉和花乃ゐゐこゝの
集わゐこゝ風と部類いゐゝゐ奇風ゐく

なゝて部れゐ奇ゐゐゝゐ風ゐゐ月乃世
まての奇とゝわえゝくゐゐゝ抑こゝ乃奇風
ゐ月ゐゐゐゝとつ物よゐゐ園日乃りとのひつゝ
ゐゝ風ゐ歌とゐるゐ物のゐ海乃ゐ蘭ゐ蘭の
乃ゝ我ちわゐわゐとゝとゝるゐゐもわゝゐゐゐ
ゐとゝゐゐゝゐゐゐゐゐゐ出ゐゐくゐよ
ひゐるゐゐよゝゐゐゐ月こゐ花ゐひつゐゐ
たゐゐ風ゐゐゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ乃ゐゐゐゐゐゐ出雲八くゝ乃ゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

きはよろつにこそおもへかたるへしとはいへはあはれと
も海ともおもひきこえさらしかくあはれともいひて
あまりなかなかこの屋すこし可みちのなむしあはわ
きる春のもやしの花桜の山吹よし野
色もよそほひてしなかわこのこゝおもしろき山の
井の手の玉名とよさるものをなかりく難波江
のあはれはつきぬ梅いはるゝをかしくすみおもわ
室かとらんきこの世をわたさしとおもひしたりけ
こゝろとあやさしくむかしのためしからねまうし集れ
いはれはべるものをとも見るもきゝし給へきみ

さらへさるくとへとし次てともし勅をもうくみくら
梅さくと枕おほわちちくをきちとせわいみへつわ
勅撰にたまはたりそわあ集とあそしぬきておる
いあくろれ位あうくあるいそ宅のしおもうそる
もえへしたゝみちを撰海ありゆ梅のくりあかくされ
あとともふしかなれどもあききて世の中は松の戸
やうかめのみれ昔の跡よ古いわあるを見これと
えこつるものしくかみのふれど宇治山の僧喜撰
撰とつひろる手鏡とつくきのみちしのつとう
雲たちわたりて やまと哥の式をとれくたはあるる

ゆきをはらへる梅のはなむらがれるを
ながめつゝこのなすらへ
海のかたよりあれさしいくばくかうちなびくらむ
をすゝ
月のかれをゆきはらへるはるくハ
むそちよりなむわかまれて安くれとの繁
湯くのもとの草わかゆたくまつる
きゝ人とおもうをとうの家ぬきとわるまし
この集のくこのあいだるゝかぬれて信吉
れ雲の風いさくはるくもれる玉はゝ鴻のなくみ

かくさはるゝ角ゝの春秋を過わ世ゝ
霜紙のさ〇さ〇ゆくやゝ治みはの年を梅
ゆ月の中れをうゆえるいあてさつめ
めるゝなむわ

千載和歌集巻第一

春哥上

源俊頼朝臣　五十一首　短歌一

たちかへりあらたまるとはいふなれど
なほうちとけぬ春の風かな

堀川院御時百首歌たてまつりし時

中納言国信　五首

みしかよの夢のうちにかすみたち
ぬるとはるかの山のはの月

百首歌たてまつりし時

待賢門院堀川　十四首　短歌一

ゆくとしの春のあけぼのなりぬれば
ちかのしほやにかすみこめたり

雪ゆきのこほれるなかのうぐひすは
堀川院御時百首歌たてまつりし時
雪ぬけのこゑ

前中納言匡房　十七首

道のべのつちとなりぬとおもへども
なほうちとけぬ春の風かな

藤原顕綱朝臣　五首

春あさみ花の下ぶしなれなれば
後冷泉院御時百首歌たてまつる

大納言隆国　一首

山ざとは雪のしたにぞうもれける
ゆきのあしたのうぐひすのこゑ

法性寺入道前おほきおとゝ
ほとゝぎす百首歌たてまつりける時十首歌
源俊頼朝臣
きゝわびぬ宮城野の萩の夕露にぬれてなくなる
右大臣よ伊きる時家に歌合し侍りける
家に歌
家に歌
藤原為忠朝臣 建久
十五首
家に歌
藤原為忠朝臣
播磨院乃浦時百首歌乃うち恋歌
とてよめる
藤中納言
医房
わすれぬとこの神なる山もとに家ゐしてそ家ゐ衣ゆらまほしき
家乃前とてよめる
刑部卿頼輔 五首
春こゝに松乃ちりまがへる家ゐかな
左兵衛督隆房 五首
人家世ゝとこゝろ乃松に風ふけは
百首の歌とてよめる時子日のうたとてよめる
侍賢門院播磨
とゝ記とかる松とや春とゝわらしとつゝとてとる
家よ伊きる毋房のりとよ三月十日百首

なれぬ房のまへのゑゆそしるかわたるほとさて
あつかへる　治部卿通俊　二首

うら山し雪の下草わけてなとさく花のよそにさかりん
堀川院の御時百首の哥たてまつりける時
かすみをよめる　源師頼朝臣

春日野の雪とまかふとみえつつさきつる神の山かけ
むめの花けふ日も雪の消えぬ朝に家の
梅をあかてさしもおもの朝日にうつりける
権中納言俊忠　七首

咲そむる梅の立枝にふる雪のかさなる数をとへかはや

題しらす　源俊頼朝臣
梅の花にほひを枝にとめてやみのよは
梅の木に雪の降るにも鶯のなくをきゝて
よめる　左京大夫顕輔　十四首

むめかえに降つむ雪は鶯の羽風にちるも花とみえけれ
永保二年二月内裏にて梅花契遐年心
といふことをよみ侍りける
　　　　　　　　　　　　　　久我前太政大臣雅實　一首
かをるみちかせの春はむめの花さくらん世のかきりなる
堀川院の御時百首の哥たてまつりける時梅

花の方にうつるあるじ　大納言師頼　四首

まとわぬ梅さく宿にかをしまるるまゝに人とはるる

前中納言匡房

ふるいとにてはるゝ我とはしむ梅花ちるとぬるまの月

崇徳院御百首の内　梅の月　宮内卿

梅の花おりてかさしつるはるの雪かとぞみる

いけるこ武部　二十二首

春の雪の梅のやどりの人ゝかをれ

前参議道信卿歌　五首

ちよ経とく風や吹らむ花の雪のふるとみるまで

春の雪梅の花とをとりあはせてよめる　前大尼君　六首

百首の内　梅の月　宮内卿

せをはやみ　崇徳院御製　次首　短歌一

春の夜の月の風の梅の香をとはぬ人にとはるる

梅花雪　藤原定家　六首

梅の香はとりの海のはるかぜ

源俊頼朝臣

春のたつ日の梅の花ゆへ

右のかたはるの花　実定　十五首

いしめの雪よりかをるうつゝ也雪は鶯の鳴て枝にうもれぬ

梅ゝえの花まつゝ雪は鶯の鳴てまつゝふ雪乃曙

二位法親王（仁和寺）守覚　五首

風渡る野辺の雪の鶯の鳴てまつゝふ雪乃明方

権大納言実家　八首

中院よりわかるゝ雪乃うゝの二月つゝ

花さくよりあるゝ花の枝ゝ枝ゝ雪の賀

太后宮大夫後成

昔とゝ雪の富れしあ花ゝ雪ゝ枝ゝ雪ゝ

大納言定房　二首

堀川院乃内時百首歌奇雪

乃内ゝ雪ゝ

前中納言定房

ゝゝ雪ゝ春の雪の消ぬ花ゝ雪ゝ

藤原基俊　廿六首

義雨後初ゝ雪ゝ

野ゝ雪ゝ

ゝゝ武部

ゝゝ雪ゝ野の雪ゝ雪ゝ

堀川院乃内ゝ百首の奇雪ゝ早蕨

ゝ

源中納言

雪ゝ

崇徳院より百首の歌をめされける
乃前として読んける

藤原清輔朝臣　六首

みさとわけて思乃多ゆるやりしつゝ玉江乃江とわさ乃長こまま

崇徳院の御時百首乃歌のうち海鹿乃歌

源俊頼朝臣

春くれぬ乃ちかわしつゝ乃ちかとて海つ雲海よ思ひ立なわ

海鹿ゝ乃歌より歌乃

藤原忠通朝臣　七首

ゆくへ思ふ乃すゆる乃の浦乃雲とひとつよ成ぬうつ乃ゆ

天徳内裏ひゝ乃歌合乃歌

従三位頼政　十四首

海つ鹿つ雲井とも乃ゝ孫とゝ乃わとたつ乃ゝ乃

崇徳院より百首乃歌をめされける時

祝部宿禰成仲　七首

よめる

春乃歌

百首乃歌乃内ひとさと乃わ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

せ孫ふ乃ゝ

藤原季通朝臣　十五首

わさ孫つよ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

崇徳院御製

侍賢門院堀川

白川院花ぞらんかしまれもしくきりの跡
ふれとゝみくまわかるる

京極前太政大臣　師賢　三首

山櫻散ぬと空よさうとれわすれぬ乃気わくゝの郡
鳥羽院位ゝわさせ給ふ白川上皇ゝ
て花ぞらんかもるゝ日のゝんかるる

有仁　五首

花薗左大臣

かゝるまさらぬ花乃頼もゝんゆゝる長ゝまゝゝる白川のゝ

徳大寺左大臣　實能　三首　千載代表歌人

年ゝ歌ゝ流ゝ世ゝ花ゝ著ゝ白ゝ雪ゝ
山花ゝ雪ゝ流ゝ世ゝ流ゝ世ゝ流ゝ世ゝ白ゝ雪ゝ

崇徳院御製

散ぬる花のあとゝ乃ゝ山ゝ世

法性寺入道前太政大臣

ひゝるさゝとゝそゝの行ゝ乃ゝ花ゝ乃ゝ嵐ゝ乃ゝ山ゝ

寛治八年さゝ乃ゝ御ゝ代ゝ

後朱雀の御代ゝ陽

中納言女王

山桜よしのにかゝれる春霞風をいとはゞ色やかはらむ

前惠所總明臣

花盛へよしのならぬ山ぞなかりける色は春風霞かゝる峰

京極乃家にて十種供養し侍ける時白河院

行幸させ給ひて又乃日新東あそばせ給ふ

きゝよみ侍ける

京極前おほいまうち君

桜花おほくの春にあひぬれどけふの色をためしとはせむ

後二条関白内大臣

花ざかり春乃山辺を見渡せば空さへにほふ心ちこそすれ

右衛門督基忠

咲よりも花のあくまで春ならんたゞさぬ嵐に雲とゞまらむ

毎朝見花といふ心をよみ侍ける

中院右おほいまうち君

朝なさなわが折桜風わかず露にさへ花の枝のなまめかしけふ

東山に花見侍る日よみ侍ける

右大臣

ふかく谷にも梅やあらはに霞めども風さそひ世にもにほへ

十首乃哥人々によませ侍るときよめる

前左京大夫顕輔

みなのせよりしら桜ちるまつ春の海ちかし

景徳院に百首の哥をよませ侍りしに

そらゝゝ

かすみこめたゝの陰の山の桜

右京大夫[illegible]

山桜雲とみるまでわかるゝ風に雪降

前参議教長

神垣はまだ三室の山ぶきの花のこゝろもかけてたのまん

夜思山花といふ題をよめる

仁和寺法親王[illegible]

春の夜はゝなの匂ひにまどろまで月にあかすの山の端

[illegible]

[illegible]

尋花日暮といふ題をよめる

源俊頼朝臣

[illegible]

花の所にて懐旧

道因法師

花越しに[illegible]

賀茂社社頭合にて人々[illegible]

花の哥よみ侍る　藤原為時朝臣

遠里の桜の花ハ風ふくとぬまにちる花なれや

藤原忠衡朝臣

花ゆゑに雪かと見ゆる山桜春ハ花のみ咲わたるかな

春日の社の哥合とて人々よみ侍りけるによめる

顕昭法師

吉野川みなきる瀬々の岩根をもこゆる花の白浪

散花とふるとも雪と人や見るらん

よみ人しらす

さゝ浪や志かの都ハあれにしを昔なからの山さくらかな

日吉の社の哥合とて人々よみ侍りける時よめる

祝部宿祢成仲

さゝ浪や志かの花園見るたひに昔乃人の心をそ知る

花の哥とてよめる

賀茂成保

高砂乃尾上乃桜咲ぬれハ遠き汀によする沖つ白浪

おしなへて花のさかりに成にけり山の端ことにかゝる白雲

円位法師

吉野山花のさかりのなかなかにたゆる時なき峯の白雲

藤原為業

毎春花芳といへる心をよめる

春とてくれはいとゝ霞つる山桜さかりはいつかうつろふ

源仲正

百首歌たてまつりける時よめる

侍賢門院堀川

墨染の袖の涙の色なれは月のいろはの海さわぐ

上西門院兵衛

花乃色はさくらの木乃ゝ梢にあらなくに

哀なるかな花乃さかりの時

大寧大貳重家

哀なるかな春乃ゝ風

花恋

十首乃歌

大宰大貳重家

花乃ゝ散つもるとはなしに

花乃ゝ散ぬるとはなしに

春乃ゝ風

皇太后宮大夫俊成

山吹乃花乃さかりの

哀なるかな春乃ゝ風

千載和歌集巻第二

春歌下

鳥羽殿の桜ちりまがひて見花とつゝ
きりをおのことしほうしつゝ
よりさせ給ふ　白川院御製

咲ちりわかまてこれかはかせ
みまくおもしろきかの春の波ゆ
ゆるかるゝ池上花とつゝ
計かな　院御製

池のうへ汀の桜ちりまがひて浪の花とぞ
白雲と雪かとぞ見てはかりまがへる
百首乃歌　大文第太政大臣

芳野山さくらの花の雪ふれる
寛治八年関白殿の
高陽院の家乃歌合に桜
四侍従

山の花のちりぬる人ぞ
大文第太政大臣

桜ちりぬれかは雪ふれる
百首乃歌　芳野山の通親卿

芳野山さくらの花の雪ふれる
寛治八年関白殿の
高陽院の家乃歌合に桜
四侍従

桜ちりぬれかは雪ふれる

後宇多院の御時うへのとのこもりにん
山の花見侍るとて夜乃ふかれて自房
よさまわりてとのゝ奇よ人侍るまゝみ侍
るゝ　大納言長家

春毎に数花みまほしけれとこの山ちに
後花咲山路とうるゝ雪ゝ成らめ

赤染衛門

ゆゝしかりけるて梅むめ
堀川院の御とゝ百首の奇をわるる時梅
咲らめる　前中納言匡房

山梅をゝしのゝ宮ゝ
花ちる春の日のゝ
春をゝ花咲ぬ山風を梅の
春をゝ花咲ぬ山風を梅の

藤原仲実朝臣

ゝうめの梅の夜をゝきる
苔恩基後

梅の花を思ふ
堀川院の御時十首の奇をわるる時梅の
奇をゝ侍るゝ　右兵衛督公行

風吹ゝ雲の山高の白ゝ花ちれゝ雪のゝ
百首の奇をわるる時よゝ
前参議親隆

春風に誘はれて花ちらす波の浪にさそはれて
花の雪とぞなりにける

右近衛將監良政

梅さくひとの山の端にかすみたちて春の浪
花の面影とぞなりにける

右兵衛大將實房

ちりぬるか花のかをりにさそはれて風にぬれ
ぬる花の白雪

權大納言實國

わがなくに袖につゆのちりぬるは春の浪
の花にぞ侍りける

入道前太政大臣家

梅の花さきにけりとてあるかの中にまじりて
花の雪とぞ見る

權中納言通親

梅の花ちりぬるかとて春の山の風にぬれ
ぬる袖にぞ侍りける

後鳥羽院御歌

春の山の風にぬれぬる袖にぞ
ちりぬる花の白雪

源有房

一枝折る袖にぬれぬる山さとの風にのこる
花の白雪

道因法師

ちる花を春の山ぢにとまりて風にぬれぬる
わがなくに

覺盛法師

春の風にぬれぬる袖にぬれぬる

源仲綱

山桜霞をみつゝ思ひ知れ花知らぬ人ぞはかなき
花の霞をとへとくもみ侍るかな

道命法師

よそにては雲のゐるかとみる桜花のまゝにては霞つゝ
池に桜の霞ぞかくれにける侍るかな

能因法師

桜ちる春の雨にぞぬれにし春の風ふくをかくへやまかせ
花浮洞といへる心をよみ侍る

花園左大臣

山風に霞吹きとく花しあらはいろかくちるをしまし花河の水
山家落花といへる心をよめる

前大納言俊実

花のちれちりての後は山さとに掃きもぬ庭の人もなわかれ
花落客稀といへる心をよめる

藤原基俊

春は花よりさきに思ひおくれちりぬるのちは人ぞ恋しき
みちの関にわかるゝ時に我の関まて
花のちるをまつかなる

源義家朝臣

吹風をなこその関と思へとも道もせにちる山桜かな

[illegible]

[illegible]

源仲正

[illegible]

百首の内[illegible]

藤原秋親朝臣

[illegible]

[illegible]

藤原季通朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原中納言通房

[illegible]

[illegible]

中納言國信

[illegible]

源理大夫[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源[illegible]國朝臣

[illegible]

堀河院乃御ときの百首のうち鶯をよめる

前中納言匡房

春のくる朝の門のをそくとくつる人より鶯のこゑ

前右京大夫基俊

やまかけの花咲くよりも鶯のなく井の上のこゑやとまる

堀河院の御時肥後の家よりよみて山吹わかき

こゝろ絶えてまかりて侍りける

二条太皇太后宮肥後

九重の雲井鶯の声すみて井の上の鶯の声をそらしき

春の色鶯といふことをよめる

前右近中将[illegible]

吉野川岸の山吹さきぬれは底にそ深き色はみえける

藤原定通

ひかりまつ枝にかゝれる雪なれや梅ちるやとの井の上の門に

鶯の歌とてよめる

惟宗広言

いかはかり春をまつらむ谷の戸にさへ鶯の声

百首の歌たてまつりける時鶯の歌とて

よめる

前参議清輔朝臣

鶯の花の所をたつねつゝ梅のえに鳴くらむ

右衛門内大臣の家にて歌合し侍りける時

花とよまれ　　康資王母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首の内なるを時よりはじめる

[illegible]

やまひのほどとはれて白川殿より[illegible]

[illegible]

うきものとおもひしたてまつりしかはつくる

[illegible]　　二条院御製

我とはなしきりのあはれとなりぬ

百首歌の内なるを[illegible]

あまりかな　　崇徳院御製

花ゆゑはまことわかれの[illegible]

[illegible]

命あらばとあいなくも[illegible]

中務卿具平親王

[illegible]

式子内親王

[illegible]

百首の内[illegible]

[illegible]

大納言隆季

[illegible]

三月廿九日[illegible]

久我内大臣

[illegible]

[illegible]

藤原定成

[illegible]

源仲綱

[illegible]

[illegible]

藤原経家朝臣

[illegible]

[illegible]

三月廿九日[illegible]

[illegible]

殊賢法師

[illegible]

[illegible]

法印静賢

[illegible]

権大僧都範玄

花乃春かすみのひまにわかるゝ霧ぬ日数のたえそわかぬ

海路二月やみとやいつるらん

前大僧正覚忠

打出てゝひとしなきさに浪よせて浪ともにやそむくなる

堀川院の御ときの百首の哥たてまつりける時

風蘭をよめる

前中納言匡房

清狭なわれもれぬおもほえを知らしもの衣かはらすも哉

前斎宮河内

まよひぬる風の音もかくれなきみちをこひしき花をおもふる

千載和歌集巻第三

夏哥

堀川院乃御時百首の哥たてまつりける時
更衣のこゝろをよみ侍りける

前中納言匡房

夏衣花のたもとにぬきかへて春のかたみもとまらさりけり

藤原基俊

けさかふる蝉の羽衣きて見れは袂に夏は立にそありける

崇徳院に百首の哥たてまつりける時
[?]しめの哥とてよめる

藤原清輔朝臣

あ[?]春乃別によそへてや卯月と人のいひはしめけむ

卯花をよめる

左京大夫顕輔

むらくもの[?]垣ねの卯花は木間の月のおちかゝるかな[?]

首夏見卯花といへる心をよみ侍りける

右近大将実房

桜[?]月よりのめくみと卯花のさける垣ねのさやけかりけれ[?]

卯花の哥とてよみ侍りける

仁和寺後入道法親王

玉川と音にきゝしは卯花を露のかされる名にこそ有けれ

白川院高野御幸
とし奇合し侍りける御供をよめる

藤原重通朝臣

[illegible]人[illegible]
遠村の花とつるる[illegible]
[illegible]

賀茂政平

[illegible]
御花園[illegible]

藤原敦經朝臣

[illegible]

山さとにこれもあれとわかてかうゑ侍りける

藤原定通

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]
賀茂[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

仁和寺にみこのりとふさくおとくなに合五首
よみ侍りける時のうた　按察使公通
時鳥まつにはいつしき夜のまを待ぬよに明ぬとはかへらん
修理大夫顕季家にて人々よませ侍りけるに郭公を
読る　藤原道経
二こゑときかでやなかむ時鳥まつによなよなの明ぬとも
時鳥似寄といふ事をよめる　賀茂重保
きくひとは誰にか家頼む山ほととぎすなくかぎりにかへるらむ
山寺にこもりて侍りけるに時鳥なかさりけれ
ばよめる　道因法師
おやまきのいつら人のもる郭公なかぬよはなき人もあらん神まつる
顕しける次　康資王母
孫覚法師のたかれにつけ時鳥つきぬ人をとも待へりや
時鳥そこやなくとまちきにつきぬらんと待ける　刑部卿頼輔母
待ちえてきく人のまことやと時鳥さりとも神さやかなるらん　覚盛法師
崇徳院に百首の歌奉りける時よめる
聞てしも人へなの物語郭公人はたのめなる夜とはなし　前参議教長

[illegible]時分と云心を　権大納言實家

[illegible]時分雲[illegible]

當天時鳥と[illegible]

[illegible]

仁和寺法親王守覺

[illegible]時分[illegible]雲[illegible]

[illegible]　前[illegible]清[illegible]

[illegible]

[illegible]

従三位頼政

[illegible]雲[illegible]

[illegible]時分[illegible]

[illegible]時鳥[illegible]

権大納言[illegible]

[illegible]時分[illegible]

曙[illegible]時分[illegible]

右大臣

[illegible]

時分[illegible]

権大納言実國

[illegible]

権大納言[illegible]

[illegible]

前右衛門督公光

郭公雲ゐのよそにすきぬなりはれぬおもひのさみたれのころ

摂政右大臣の時乃家歌合によみ侍りける郭公の歌とて

皇太后宮大夫俊成

過ぬるか夜半の寝覚の郭公声は枕にある心ちして

右大将実房中将に侍りける時十五首歌よませ侍りけるによめる

道因法師

きゝてしも猶ねられぬは郭公まちしにまさる一声つゝく

郭公をよみ侍りける

権中納言長方

山ととそれとはかりの郭公かのかくれなきのむしろ夜半の空

久我内大臣乃家にて旅宿菖蒲といふこゝろをよめる

前中納言雅頼

旅人のひきむすひてそあやめ草かりねの床の枕とはなる

菖蒲乃歌とてよみ侍りける

摂政前右大臣

五月雨にぬれてひくらしあやめ草ぬまの岩垣浪さへこせ

内大臣良通

新らくも梅しもきかく郭公猶そやあやめよそにつくらむ

後朱雀院乃御時長久二年五月一品内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源後頼朝卿

中院へ通たゝ[illegible]中ねよ[illegible]時[illegible]合

[illegible]月雨の[illegible]

藤原[illegible]仲卿

[illegible]月毎よ[illegible]

[illegible]

[illegible]徳院よ[illegible]

左京大夫[illegible]

[illegible]月毎の日数[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月毎[illegible]

[illegible]

[illegible]月毎[illegible]

[illegible]

[illegible]月毎

月前郭公

旅宿月前郭公

源仲正

さそはれぬ夜はなきてし神なびの月前郭公

月前郭公

賀茂成保

月前郭公

月前郭公

源頼政

郭公

橘実資賢

郭公

南路郭公

中納言師時

あかつきの山ぢのあなたかすかに聞ゆる神なびの郭公

後一条内大臣八講に参り給ひ侍りしに

ほととぎすなきてすぎぬる方をいとどしく

ながめやるかな

律師覚運

郭公

暮れ過ぎぬ

暮れ過ぎぬ

暮れ過ぎぬ

[illegible]川院の御時
[illegible]を演ぜられける
[illegible]
[illegible]なしの時百首の哥をめされける御題
のうちとみ分くる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

前わかつの山と思ひ出でゝみるかなかの宮ぬ

菊原季通朝臣

詠ら寸

袁ふとみさかよと稚つ宮の社の前の

源後頼朝臣

わさわせ水のうさひよ流らくひーの浮と鵜のみわ

為家卿 私こつつ伝ら

法性寺入道前太政大臣

春ゝ夏ゝ秋ゝ冬ゝ五ゝ歳つ為のとれとくや私ゝ

百首の奇れ中よ勢川のいとさせ

宗徳院御製

こゝ世川ゝやさのわつ勢ひ出ゝ世ゝ

おてこゝ乃花乃國なわきとゝくゝ

和泉式部

ゝろゝる我ゝ世れ知よ(とイ)おゝてゝ知ゝてゝ

松下遠源こゝるゝ我法伝ゝ

中務ゝ具平親王

こゝ春れ花と寸ゝて梅風と松の法ゝてきゝ

小宮とゝこゝ伝ゝ

仁和寺法入道法親王覚性

春梅と松の新ゝ人ゝ

百首乃奇ゝ

わくらゝ葉のもとわけ行くの秋
郭公す　大炊御門右大臣

山陰や宮ゐの清水音ばかりて夕のみなるひぐらし　法印慈圓

秋の夕べ道絶　前参議

秋の夕べ人の数とみる秋の月の言葉なし　俊恵法師

見ずとも清水を宿よりそなたをつゝみ　那波法師

ひらめくふる葉の月を清みかとつゝ

泉水に紅葉の影ゝ入るゝ秋清る　法眼実快

夜夜晴月ゝ入るゝ秋をよめる　前参議実房

我ゝ入るゝ秋の月の光ゝ明月　従二位宗孫成仲

夏月をよめる

夏の月の光ゝ明ゝ入るゝ秋よ　俊恵法師

[illegible]

大文乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

みな月はらへとうろう　侍従入道

はらへとう川流すさ衣の袖にかをる梅風そよく

千載和歌集巻第四

秋歌上

侍従のめのと

秋のつとさそふ梅の花　二条法親王

わさとうへしそのかをる梅さかりなれとあかぬやうにそ秋をまつ

百首の歌のなかに

待賢門院のかすかの内

秋くれはまつ山の森の下風にそよ梅はかをるなりけり

皇太后宮大夫俊成

八重葎さへとはぬ人ぞなき

初梅

梅ぞ見ぬ春ぞ古りぬる

東路の春の風ぞ梅の香を

袖にうつすと

春の来ぬ人ぞ待ちける

梅風

梅の風吹かば匂ひ

春の来ぬ

賀茂成助

秋の来ぬ

郁芳門院の前栽合に萩とよめる

大蔵卿行宗

物とふ梅の宿ぞ

初秋の心

萩風

源俊頼朝臣

秋風や涼しくなりぬ

七夕の心を

萩

右大臣

七夕の中やつらむ

百首の歌

七夕

大納言隆季

七夕の天津乙女の

堀川院の百首の歌

[illegible]

二条太皇太后宮肥後

七夕の[illegible]

[illegible]

前参議文河内

[illegible]

七夕の[illegible]

源俊頼朝臣

七夕[illegible]

百首の[illegible]

[illegible]

崇徳院御製

七夕の[illegible]

[illegible]

左衛門督大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言師頼

[illegible]

[illegible]

親王家中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第七 岩秋と題して

法中納言静賀

秋きぬと風にぞ聞くまくずはの葉裏返すいとはやの音

清人朝臣

いろ深き上葉を染る秋風に心ぞ乱る荻の下葉

和泉式部

人目なる人せとさきぬせ萩の花咲ぬるかな

秋山萩をとこ山

荻原伊家

秋の野の草の葉分の露の玉

藤原[illegible]

文治野に萩やさかりの花咲らむ秋の野風を吹かへすなる

長賞法師

色とかぬ草の葉ぬるまで秋の野に咲ける萩の花

法門院乃西殿

伊勢

家歌の朝のはつ風ぬれ花一枝おりしを袖にかをるとて

法性寺入道前太政大臣の家にて

法風とつたへてとはる

第中納言雅通

とこなつ[illegible]ものいとあはれ秋風の吹くまに[illegible]

歌事ありける時めされて侍りける

前太政大臣

とゝなへし雨の露のうすくなりぬれば袖の色ぞ

新しらす

藤原行家

吹風におれぬ竹のあるとしは

新たに見るわかななりけり

摂政前太政大臣家にて人々あつまりて

秋

とゝろ心を詠ける

藤原國方朝臣

袖ふれし人のやどの藤ぞ今宵の色をかぎりなる

堀川院の御時百首歌たてまつりける

源俊頼朝臣

ふるとしの秋の夕の月の光

野原の草の露のうへ

藤原季通朝臣

野分吹ぬ秋の夕の月の光

露をはらはぬ草のうへ

皇太后宮大夫俊成

袖ふれし野原の草の露なれば

秋の夕の月の光

源俊頼朝臣

何ゝ秋の夕の月の光

百首の哥ども千世代時第花乃山ぞ[illegible]
きり　　摂政前右大臣

梅の花を宿の梅に[illegible]厳乃香さそ[illegible]野遊[illegible]
野花霞と[illegible]ぞ[illegible]

秋の野の草の色と梅ら[illegible]　二条親王

[illegible]

第末まて秋の野と[illegible]の野[illegible]山[illegible]と霞[illegible]
　　法中意園

　　崇徳院上百首哥　　待賢門院堀川

もろふさ[illegible]我[illegible]
　　前右大臣

龍田姫[illegible]
　　藤原季能朝臣

梅の[illegible]
　　園伝法師

大[illegible]
　　法輪寺[illegible]

[illegible]
　　道命法師

ひさしくも西行法師の跡をしたひてもとめんと侍りける

前大納言公任

月をのみ秋かぜふくとよそ人にいはばやいはん人しなければ

住吉の社にまうでて侍りける時

小弁

君なくてあれにしやどの庭の面は人ぞ宿をばとはんとすらん

思ひ出でて侍りける

後鳥羽院御歌

いまたちかよはぬ山もなしとのみ思ひ入りぬる秋の月かな

秋月を詠じ侍りける　摂政前太政大臣

雲のかよひ路ふきとぢよ乙女の姿しばしとどめん

こぞのこと思ひ出でて侍りける

前大僧正覚忠

月の前あはれといふ題を侍りける時

摂政太政大臣

秋の月のかげをしたぐるもみぢ葉の色にぞ出でぬ人の心は

月の前世を思ひ侍りける

法性寺入道前太政大臣

[illegible]

[illegible]川院乃御時百首の哥をめされける時

源俊頼朝臣

[illegible]

隆源法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むさしの国より風はやく吹て時をえたりとて秋はての月
大炊御門右大臣
さそはれつる前右の衛府の月の御心ゆかしく侍りしかば
自大臣家大夫後藤
石ゐ川の月の前の野辺にて清瀧川よりまさる月哉
前右衛府
おなじ国の風はやく吹て月の
法性寺入道前太政大臣
月毎秋友とすれども世伝きく時
源後頼朝臣
思ひ入る心ばせ世にすぐれたりしかば
前右衛府
秋の月ながめ入ぬる心ばせ
藤原道経
秋乃月ながめ入ぬる心ばせ
法性寺入道前太政大臣
世伝聞きく時
大宰大貳重家
遠さかる雲井の月清き夜の月
百首の内
月清き夜の月
右兵衛督頼実

[illegible]

海色月とゝもに[illegible]

後恵法師

[illegible]

賀茂義私[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刑部卿新物

[illegible]

出羽武部

[illegible]

第六 紀伊國通

法性寺入道前太政大臣乃家より洞院摂政へ

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

源河乃水

千載和歌集巻第五

秋哥下

題しらず　　大貳三位

遠かたの海ちかくまで分わたる秋の霧哉月の光

堀川院乃御時百首の哥とてよめる　　菅原仲実朝臣

山ちかくしかのなくねもまぢかきに秋吹中ぬ風乃ひとれ哉

崇徳院御百首の哥とてよめる時　　藤原季通朝臣

秋風に松を拂ふ音ばかりきこえぬ宿とたれかすむらん

清水寺へ道ぶのおりなりける所に君ぶ家に月ぶ宿り侍りける所の家に哥合とて霧をよめる　　藤原時昌

寂しさにこゝに拂りてく物の音ふきしくとわる風ぶ哉

兼盛二条内裏乃哥合とてよめる　　菅原正家朝臣

物ぶきしくとの萩ぶ吹風ぶきしくとわる藤袴哉

堀川院乃御時百首の哥とてよめる時　　二条大宮大后宮肥後

九重ぶ雁山おろす嵐ぶ吹しきぶ鹿ぶ野ぶ分ぶ

大納言公実

[illegible]

物仁乃みち

[illegible]

田上乃山さとに鹿なくをみて

源後頼朝臣

さを鹿乃鳴音を聞て泪こそ秋の袖にはおちそへ

百首乃内に

侍賢門院堀川

[illegible]

夜泊鹿と云心を詠る

刑部卿範兼

[illegible]

藤原隆信朝臣

[illegible]

後恵法師

[illegible]

道因法師

[illegible]

鹿鳴西方と云心を覚延法師

文殊野ふかき苔の色をさへ雪ふる
庵乃奇らてらめる　左京大夫備範
さとうれさとうれ春の
雪ふるかてく地ぬるる庵の春の
山さとの曉方の鹿ふ音
法印慈圓
我ふるてまつ山ひ音ふ鹿の音をつたへ書つ陰ん
後恵法師
道因法師

極ふ月くふ風さへ物ふかきと庵ふ
かなしき秋の夕
けふとわも物ふ思ふ鹿ふ音ふ
惟宗孝言
さひ義の奥ふ
長覺法師
いのしかわ寝ふ
京蓮法師
角上ふ門田ふ物ふ
詠人しらす

[illegible]

源為朝

我門乃行てはひさよ鶯きてもなれわ面し時を忘れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道性法親王

[illegible]

式子内親王

[illegible]

[illegible]

大文字の[illegible]

十三夜月[illegible]

[illegible]

仁和寺入道法親王覚性

[illegible]

[illegible]

大納言公実

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

法橋寂蓮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊の花うえてよめる　祐盛法師

雨ふる菊の花の色はうつろひぬ
百首の歌たてまつりける時　菊の花をよめる

菊の花をうつしうえてはつかの間の菊の花
宗徳院の百首の歌たてまつる時　秋の歌
　　前参議雅通

ちりぬるよりのちはうつろひぬれ
　　藤原基俊

雲の上人雲居寺の結縁の法華
　　前大僧正覚延

秋の歌
　　前参議定家

秋の方にてよめる　紀貫之

秋の方の色にわたる秋の風
　　道命法師

秋の方の色にわたる秋の風
　　藤原基俊

秋の方の色にわたる秋の風
　　仁和寺の道法親王

秋の方の色にわたる秋の風
　　覚延法師

秋の方にてよめる　紀貫之

秋の方の色にわたる秋の風
　　道命法師

[illegible]

宇治のおとゝ殿

小弁

君をしとゝのさしもしらぬ錦なれ　[illegible]

素意法師

[illegible]

奇合　[illegible]

[illegible]

[illegible]

月照紅葉　[illegible]

[illegible]

院御歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右のたいしまの代

[illegible]

大納言実房

[illegible]

摂津国広瀬寺

高野の坂山をとぶらひ侍

左大弁親宗

ながらへばまたこのごろのなかめとは思ひ
出でよ月の宮

法三位範政

新古今集に出でし歌

潮上雲堅しとは海の開

さ浪やしほ干の潟の沖つ船

刑部卿範兼

百首の歌中に海辺の月

藤原清輔朝臣

三四山寺にまうでて三月ばかりに

覚盛法師

物とはでこしかたのみ縁なりけり

を勝院乃川禁断殺生

苔原元定朝臣

高野の山にて

大井川に放生

後恵法師

きりぎりす鳴の山の秋の夜

大井川とみな呼ぶ名ぞ

大井川おちくる落葉をみてよめる　道因法師

百首歌の中より紅葉をよめる　前右大将頼朝卿

つたえこしかの山の紅葉ちりぬるかぜのこゝろは

落葉をはらふ　祝部成仲

立田山梅のさかりはかぜはらくよる紅葉をそこなる

吹みだるれはの意とて人麿なる風と紅葉なれば

松間落葉とよめるを法師

春風猶未葉よりこゝろ　前右大将頼仲

郭しらず

ちりぬるを未葉と風よさそはれて紅葉は

法橋慈円

嵯峨院乃内の百首歌に紅葉

ちるを

秋風に紅葉ちりまがふ山さとをとゝふ人もとゝふ人

前右大将頼朝卿

百首の哥をよませられける時紅葉を
　　摂政前右大臣
　　秋の山風とともに
　　落葉深みとゝまらぬ秋の夕暮
　　後三条内大臣
　　百首の哥をよませられける時九月尽
　　景徳院法眼
　　山寺秋暮
　　法眼覚忠
　　雲居なる九重の宿の夜寒より秋の暮を告ぬる
　　九月尽の夜寒より哥合しける
　　贈太上天皇
　　ゆく秋をなほ名残とおもふ哉
　　源頼朝卿
　　明ぬとも野辺の風にとゝまらぬ
　　義爲二条内裏九哥合
　　前中納言定房

[illegible]

百首の哥よみ侍りける時九月尽のこころを

花園左大臣家小大君

こゝろしらで秋のくれぬるあきの神代をさへ

うらみぬるかな

千載和歌集巻第六

秋哥

堀川院御時百首の哥よみ侍りける時初

秋の哥

大納言公実

吹ちらす嵐の音にうすき袖

源俊頼朝臣

つもりぬる秋のなごりを袖に見て

藤原仲実朝臣

つゆもこぼさぬ人ぞ恨ぬる

百首の哥ゝ寄る時初めの八首

[illegible]

宗德院殿御製

ひとゝなく蛍りみゝ紫の煙ぞ雲の[illegible]

大炊御門右大臣

霜の[illegible]

大納言隆季

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我宿の上に雲ぞ[illegible]

山家初冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

百首の哥ゝ寄る時初めの哥

[illegible]

大炊御門右大臣

初霜の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原基俊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

馬内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源定信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仁和寺法親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原隆信朝臣

源二位頼政

源師光

道因法師

中納言国信

源山蔭中将

源俊頼朝臣

二条大宮太后宮肥後

西行法師

後鳥羽院

[illegible]

山家時代といふ心を　源仲頼

[illegible]

[illegible]

紀廉宗

[illegible]の神めぐりまれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言定頼母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言定頼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

傳大納言道綱家にて千島を

荻原長為

いとうとさの川瀬とてひめさの深めるかの鳴さわ

みとわとよあり　　皇太后宮大夫俊成

波たの開生ぬ乃そよ鳴千とわ　　道因法師

岩こ程ろあ波浪よ多ゆ多ゆなとすや波つ多ふむ

暁よ風や吉野の月新乃清き河原に千島鳴也

太太良

法印静賢

霜さえて吉野とあ乃月清き河原にやとや多ゆ鳴む

藤原乃新波のあれのくるみ多とわくるみ多と多ゆ鳴

千島を波ら

加茂成保

吹乃入ゆ上元の春と掛ふむ　　源親房

千島を水れ上ゆ元ゆ我と浮ゆ世とゆ

雲武部

澄川院の百首の内なる時ゆ

藤中納言医房

千島乃ゆ上との春れ乃ゆ花ゆ多ゆ思ひ波ゆ波ゆ

百首乃奇特ハ世ニ稀ナルコトニ
[illegible]
景德院御製
[illegible]
[illegible]
[illegible]

道因法師

月のすむこよひの雲とみるまでに梅の花咲かりけるかな

百首乃奇数

ちりぬるかぜのなごりにてはるのこころ

崇徳院御製

ちらぬまをみるにぞ春のあはれなる

月前落花

月前落花

月前花

月前花

月前

雪乃奇とて法ゐ　前黄門資隆卿

霜枯の蘇乃ゐ乃雪乃まに〻菊とわけ乃花をあわ

ゐ乃ゐす　仁和寺法親王

あとゝとゝいとゝむ〻ゐ乃月乃新と為雪乃ゐけ乃花

前参議教長

太山乃ゐ乃ゐ乃雪乃和ゐ乃ゐて乃ゐ乃ゐ乃ゐ乃ん

乃ゐ乃ゐ乃ゐ

雪乃高き浦伝行家の

右乃松かゝまき枕詞

ゆきとけ[illegible]雪より埋生て暗くしたる蔵[illegible]

右を大切実房

わとともあくまでわたる雪の中を正路海としたる

後三位家政

きえうせて[illegible]我こそ後[illegible]雪の中の時名[illegible]

浪月とわたえ[illegible]雪の中の松浦潟

藤原[illegible]

後鳥羽院御歌

[illegible]

俤かゝる対雪の奇こゝろめる

藤原良清

梅ゝかゝる[illegible]

[illegible]

醍醐の清滝の瀧原

[illegible]

後人[illegible]

流雪の[illegible]

行後雪と[illegible]

西行法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪の[illegible]　[illegible]

[illegible]

後恵法師

雪[illegible]

開[illegible]雪[illegible]

[illegible]

内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天[illegible]

[illegible]

雪中[illegible]

[illegible]

[illegible]

蔵言道懐のたまはく

北宗座言

数ならぬ身の心にかなはぬ事ありて歌にさまざまの言葉を詠みこめ

源光行

行幸にことよせて蔵言道の言葉にかけてまうし

蔵言道の心を後代に伝へ侍る

京律師後宗

一度だに見ぬ人にしたがひて言葉をかけ

ずらんにたがひて後代にことわりなく

用中蔵言道の心を上人に伝へ侍るに

民部卿親範

数ならぬ身をたのみにかけて年ふ

家の言葉

千載和歌集巻第七

離別部

宇佐乃法師ひの餞まうとて侍ける

藤原実方朝臣

[illegible]

有国大武まうとしてわらはやまひ侍ける

[illegible]

第大納言公任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲林院乃前内大臣の家にまうでて

[illegible]

第大納言公実

[illegible]

第中納言通房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible] 大僧正行尊

[illegible]

百首の哥をよみける時 かの心を

左京大夫顕輔

あらしふきちるもみぢ葉にうもれて海こえたるやうにみゆる

上西門院兵衛

[illegible]

参議資通卿

[illegible]

[illegible]

大宰大貳資通

[illegible]

[illegible]

道命法師

[illegible]

[illegible]

天台座主源心

[illegible]

[illegible]

わすれもせじ今宵の月の面影
[illegible]
とゝのくばかりなれば行末

和泉式部

別れとは[illegible]
[illegible]

慈鎮法師入唐[illegible]

慈鎮法師母

百首の哥[illegible]
[illegible]

僧都覚雅

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西行法師

[illegible]

源惟國うち海辺にして筆をとりて
人々に伝へ侍りける時かの国
にまかりて遠ざかりまかりてさてもうら蒼海波
乃緑面乃こと花面つくりそめて
れ潮うちさして詠うちて奥よりこぎ付て侍りける

入道前太政大臣

ちはやぶる神もうちとけ分て海の波まかれぬ
人よ聞て侍りける歌後侍りける

右京門督家

思ひかけぬ神の御心にまかせて出る生明乃そら

百首の歌後侍りける時別れを

別れをも山の名残ぞ

藤原定家

いくさかりの山路の

千載和歌集巻第八

羇旅歌

題しらず　　前右兵衛督藤原朝臣

[illegible]

法性寺入道前太政大臣家の月前旅宿

[illegible]

中納言師俊

[illegible]

月前旅宿

前右兵衛督基俊

わたつみの波の上の月を見ていにしへ思ふ旅の空かな

堀川院百首時月前旅宿

中納言国信

旅の宿の有明の月を見てかの浦の海人の思ひやるかな

[illegible]

八条前大政大臣

[illegible]

海ならで知らぬ国にいくとせか[illegible]

和泉式部

丹後國のうちかわ[illegible]

[illegible]

[illegible]海の[illegible]立[illegible]

[illegible]

[illegible]

松の秋乃花と何かわるらむ

大僧正門右大臣

花時野遊

[illegible]

[illegible]

前右兵衛督

道[illegible]

待賢門院堀川

[illegible]

[illegible]

同院安芸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伯耆のやしろに奇会として人々後伯耆守
猿田彦命と云て後伯耆守
右之大将実房
風の音よりもはやく〇まし松の枝の枕よりも時雨なれ
後恵法師
とかは芦毛の川の流れ新宮よりの神の御
源仲綱
草枕なれ猿〇の神と云て風の御
大夏太后文小行法
猿〇の神と云て宿の御
の仁
実房
前の所にて人々後伯耆守
猿田彦命
後伯耆守
ちくとはとものの中とこそ思ひ宮の松風音ばかり
新部の軒物
ちはやぶる神の御
猿田彦命
自大后文大夫後徳
ちはやぶる神の御
二尺親王
猿〇の神と渡り給ひて
法市慈圓

猿の世よう能のうく草枕夢の中かと夢とたとらかな

右兵衛督隆房

夢覚わ秋の夜夢よ秋の夜の月ばかりぞ残りける

閑居月

法眼慈覚

澄とうく立ぬの月ぬ雲やうの波ぬ海の閑寂

百首の内後鳥羽院御時

猿の世よう海の波ぬ海の波ぬ神の浪ぬ

波ぬ波ぬ波ぬ波ぬ波ぬ野中ぬ

前大僧正慈円

俗なる和猿の枕の寝もく俗もろ俗なく

俗なく

法師

猿の奇ぬ

猿孫ぬ末ぬ猿の神ぬ時ぬ

猿の時ぬ

猿の奇ぬ

猿の奇ぬ

猿の奇

[illegible]

平康頼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃前司行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六 [illegible]

[illegible]

藤原定家朝臣

[illegible]

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原定信朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源道濟

[illegible]

道命法師

[illegible]

花山院[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言長家大納言経信の女に伝領

[illegible]法師寺にてわかれて伝

[illegible]　大貳三位

[illegible]

[illegible]

大納言長家

[illegible]

一条院[illegible]

[illegible]伝領

兼雅卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うきよのさすらへ行こゝろ哀れ

大納言長家

四一

ゆくさきをとゝまらぬ別かなとゝまらぬ涙の袖にかゝるなみ

童子行よきたるゝ人のかゝるなみ

ゝゝなるとゝ歌よ

あらまうらゝ

雲武歌

行くゝ雲海と云ゝ歌

恒徳公ゝ

ゝゝのゆくゝ別ゝ

藤原道信朝臣

奉ゝゝ君元服の時

上東門院より

ゝゝ出ゝ

ゝゝ

赤染衛門

ゝゝ袖ゝ

上東門院

源実基朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

贈皇后英子

[illegible]

胸よみつ思ひとあいもちつさて懷こるむとそ越な

わひしきまわきとも無方かわるかるる時と

[illegible]

有慶有信朝臣

[illegible]

人の見さるる尊師と調伏法をもふ

[illegible]

慶範法師

[illegible]

待賢門院うつしたてまつる日

[illegible]

宗德院御製

[illegible]

別ふこと涙をあふとしらあてる

清原

上西門院兵衛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かのさ袋にいれかへまつりて別にわせハ
服よりなる時あるよ人乃さてわなるる品
深の家ものさとをこてれよりらうあわらけて
すらく

天台座主勝範

最深の色ハうにかちぬとぬまぬや君ゝ衣なるらし
ふつゝせ行ふまちる時雨羽織ゝて時雨時雨ら
ときうせあるくらきせおるふるあ

鳥羽院御製

つゝわもしつまきうる時雨ゝて山ゝの友とあ一て
義福門院の御服ゝて仏ゝと宣旨ゝてぬさ

仏ゝて掛る

久我内のおとゝまち代君

ふさ掛くゝあて前衣きけゝ日新れわくゝ脇
中納ゝ言伊実ゝ乃家ゝて方さかわゝら
袋のゝ中ゝ日ゝさかとゝて九条乃堂ゝ御わ仏
ゝら射ゝらゝ書付仏ゝる

大文章大学おとゝまち代君

あゝしゝ高ゝさゝ大ゝ弓前ゝ代ゝ別ゝ乃ゝ中ゝ
大納言ゝ実ゝ方さかゝて袋ゝ童恋の日須
仏ゝる

花園の左大臣家

かゝ掛ゝ道ゝ八月袋ゝ掛ゝ別ゝ仏ゝ代ゝ

大炊門の右大臣うくれ給ふ七月七日
母の三位のりこせさせこのつぼねよりうり給
ふる

檀大納言実家

七月ふつかさいかうめ檀紙に書給ふ
ゆ

三位

檀紙に書給ふ神七月廿五日長とやうん
待賢門院うくれさせ給ふ法金剛院に
く対面の時給ふ

仁和寺入道法親王

高野をこそわせく対面の時給ふ御ぞ
ふ

二条院うくれさせ給ふ

法皇院宣

為業卿右衛門督をもつて四位侍従給ふ

大炊御門の右大臣方さしかへて侍従給ふ
をなをし給ふる私記ことの外ふつと侍
給ふ

右のおやつまさ光卿

をしへとをくるとをくるとをくるとをくるとをくる
母の二位方御ゆうりて侍従給ふ

民部卿成範

香過山おりいやをくるとをくる時の人檀紙に書給ふ

母の服よりのち
ちゝ時後のち
かさねのかて二年八月
思ひくれやまぬ

文紀伊二位殿へ
萩恋員憑卿

○て萩衣涙ぞわけかさ○つる
世をかへかわぬ宮の時ぞ

右京大夫秀能

みなせ川ゝ義政ぬ
後八道法親王
尺て後のち

別をわ
うれしてはへるまて月を

備後京性

八月ぬ
ぬるゝ袖の別の時
おもひ出ぬ

涙ぞ思ひ出れや山のを月
おもひくれよまぬ後の

乃おりゝたゝ後のちよ

右京大夫循範

野ゝ分れ昔の袖や紅
奈良の山後とゝ
みちまくのちゝ

世をこめ昔恋
月ぬ川事ぬ

備後範忠

何事ぬ物ぞ思ひよ
花薗の左大臣の家ぬ
歌ゝ後のちて

後ぬ
後ぬ

[illegible]

法印成活

思ひさだめきこゆる御願の事なりけれども
[illegible]
おりしも行ふるとそれもしおこなひてはべ
母君のかはらぬよろこびなるべし

靜緣法師

[illegible]
周防ぜんこの父のさかりなりしころ所領
[illegible]
きゝ時なり

菊原親國

[illegible]
仁和寺法親王蓮花門院よりくれ給ふ
[illegible]
[illegible]

覺蓮法師

[illegible]
父の中納言[illegible]長の墓所の雲源寺のこと
[illegible]

法眼長真

[illegible]

母なん方さまの御ふるまい時候哉

那須法師

あるべきものとまちて梅とはるかの命なれ
月行のよるべ西行梅の花ちるまでとおもひて
泥よりてこ修行なれたるあり

園位法師

とぶらひとも深めて梅の月独ながめしまとをなる
西行法師方さまの御ふるまい西行
ふるさとにきて西行のりとまれけり

常然法師

那須殿さまの夢さめうつらかれて別なく海の
邪

園位法師

こ乃世あてみあるまり紀州の京
ち絶ん今をこの世

千載和歌集巻第十

賀歌

みこのおれもうしくしまうしたまひける時の歌

きりはへ八条院四親王宮の御時の歌

かくさくの行遊の友とつかはしける

よしさだ

院御製

きみ君とかさしかざしもうしたまひけるとしの春

後三条内大臣

ちとせをかけてかさしてもうしたまひけるとしの春

白太后宮大夫俊成

我うの君（とイ）

我うの君のうしたまひける

後の山を法皇のうしたまひける

大宮内大臣

君代のあまのこ山出る日はてしかさわ流さしてはる

堀川院乃内侍

堀川院乃内侍

はつるへかさしてはる春の歌

源俊頼朝臣

君をあさしてはる春の歌

春の内侍

春の内侍

とうしの春の歌

花契遊友

さはるはる

堀川院御製

[illegible]

鳥羽院くらゐおわしまさせたまひてのち[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言忠教

[illegible]

堀川院御時[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白川院[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

京極の前大政大臣[illegible]

家の前[illegible]

[illegible]

二条大宮大臣[illegible]

[illegible]

[illegible]

京極前大政大臣

[illegible]

堀川院の御時百首[illegible]

[illegible]

二条大宮大臣[illegible]

行業をまつそひさう記君うん毎のちめ風子月こあり八
祇の公をとめうつ　苔原基後
奥山ゆん院院とのの院院記君毎法法とうつ院ん
保延二年法金剛院より行幸ありて菊覆
毎物をうるんを後行らあり
法性寺入道前太政大臣
嘉応代とあり月明白菊風吟やとせのをうつ
花薗左大臣
八重菊はうしはをうつ嘉毎八日年秋とかう菊とし
八条前大納言大臣

地をあつ神世とも人ものこと白菊のこれ
百首の奇あり家の時後の伝説をせ行
景徳院殿御歌
嵐とあれ枝とかあ山ものしき歌えさ
二条院御時大内にたりまりくうて花
有表をとうるんをうせ行ちよの人作
家ら
春雨の初花とあ
花のおいまち代君
うの色のとこと百首の奇なりの時後の
公をとせ行あら　二条院御歌

白雲よりくもりなきかぜのはらふらん
百首の哥奉りける時の哥

武蔵国親王

うこぎなるかぜのはらふらんかぜのはらふらん
拾遺右大臣よりの百首の哥とて世俗
きりよりの哥

皇太后宮大夫俊成

百年をこゆるこの海をもとこの山をもとこの
二条院の御時おなじ門前の倉院四裏
のうちの同初のまくらの家にて始て侍歌

仏家の哥

大炊御門右大臣

同院の家にてうめて菊松年新とつくる
を侍りける

道家関白大臣

百年ぬのへのかぎりの新をかぎりの雲ぬをかぎりの
菊松年新とつくる

源通親卿

菊松年新とつくる
百倉院乃御時内裏にて仏家
第二百歳楽抽賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]